

大阪樟蔭女子大学 学芸学部「被服学科」学科名称変更のお知らせ 平成 28 年 4 月より、「化粧ファッション学科」に名称を変更します

大阪樟蔭女子大学（東大阪市、<http://www.osaka-shoin.ac.jp/univ>）は、平成 28 年 4 月 1 日より、「学芸学部 被服学科」の名称を「学芸学部 化粧ファッション学科」へ変更します。

【名称変更の理由】

被服学科は、昭和 24 年に本大学が設置されたと同時に開設されました。環境や文化の変化に対応しながら発展を遂げる中で、被服学に化粧学が加わり、その領域を拡大してきました。

現在は、被服・化粧・美容の 3 領域をトータルで学ぶことができる学科として、服飾美学、被服構成学、生活デザイン、被服材料学、被服整理学、化粧心理学、メイクデザイン、化粧科学、美粧学、美容学、美容感性学からなる研究室を配置し、教育、研究活動に取り組んでいます。

このように学びの範囲を広げた現在の被服学科において、その内容に相応しい学科名称とするため、平成 28 年 4 月より「化粧ファッション学科」と名称を変更します。

さらに平成 25 年より、大学院人間科学研究科に「化粧ファッション学専攻」を設置し、化粧研究・ファッション研究という高度な教育と研究を行っています。この度の学科名称変更により、大学院と連動した教育、研究活動をさらに推進していきます。



【本学科の特色】

■日本で唯一の、ファッションをトータルで学べる大学

被服・化粧・美容の 3 つの領域を展開し、ファッションをトータルで学べる国内唯一の 4 年制大学。大学院化粧ファッション学専攻を併設し、国内屈指の教育・研究機関でもあります。

■多彩な資格が取得可能（※コースにより取得可能な資格が異なります）

4 年制大学でしか取得できない学芸員や中学校教諭 1 種（家庭）・高等学校教諭 1 種（家庭）、衣料管理士の資格が取得可能。また美容師国家試験受験資格、メイク、ネイルなど美容関連の資格取得もサポート。

■卒業生の就職決定率 92.6%（平成 26 年度実績）

ファッション、メイク、美容の専門知識と技術だけでなく、幅広い教養を身につけることにより、企画職や研究職、教員など幅広い分野で卒業生が活躍しています。

【学芸学部 化粧ファッション学科 コース概要】

被服学専攻： デザインやパターンなどの技術、文化や歴史、素材、産業まで、多彩な学びで服飾のプロを育成

化粧学専攻 化粧文化コース： 化粧学に基づく、美の知識と技術を持ったメイクのプロを育成

化粧学専攻 美容コース： 美容師資格を持つだけでなく、教養を身につけた美容のプロを育成

※被服学専攻は、平成 29 年 4 月より「ファッション学専攻」に名称を変更する予定です。

【本リリースに関するお問合せ先】

学校法人樟蔭学園 百周年記念事業本部（担当：^{うだか}宇高）

〒577-8550 東大阪市菱屋西 4-2-26 / TEL:06-6723-8152（直通）

FAX:06-6723-8263（直通） / E-mail: 100th@osaka-shoin.ac.jp

樟蔭学園は創立 100 周年

100th

Anniversary in 2017

【化粧ファッション学科について】

戦前、戦後において、被服は生活の必需品として主に家庭内で製作されてきました。しかし、高度成長期以降、既製品が購入されるようになり、意識や流行に左右され、機能性やファッション性が重視されるものへ変化しつつあります。

そのため現在では、被服を化粧やヘアスタイル、装飾品を含む身体表現と考え、服飾・化粧・美容を包括した生活文化や身体全体を社会的に捉えることが重視されてきています。またモノづくりだけではなく、科学的な領域をも重視した教育が必要になってきています。

このような時代変化に対応するため、化粧ファッション学科は、ものづくりやビジネス、文化芸術、福祉、生活という幅広い領域で構成されています。こうした多岐に渡る教養を活かし、企画職や研究職、教員などを含め多方面で社会に貢献できる人材育成を目指しています。

＜授業例紹介＞※被服学専攻と化粧学専攻で履修可能（2015年度）

科目名
化粧品基礎科学
担当者
高田定樹（たかたさだき） 教授
授業内容
化粧品科学は化学、物理学、生物学、色彩学、皮膚科学、粉体科学など非常に多岐にわたる分野からなっている。また、これらの学問領域とは異なり感性に結果が依存することが非常に特異である。化粧品に関連する科学、物理学、生物学について復習を行いつつこれまで理解が不十分であったことを明確にしながら進めていく。できるだけ科学が身近なものであることが実感できるようにトピックスを交えながら講義を行う。
授業の到達目標
- 化粧や身体装飾に関する工学・皮膚科学に関する基本的知識が身についている。 - 化粧品科学の特異性を理解しつつ、化学に関する基本的事項を理解し、化粧品基礎科学実験を履修するための基礎知識と技術を獲得している。

化粧科学の分野では、化学を苦手を感じる学生も化学の基礎を学びなおします。実習では実際に化粧品の製造に取り組むなど、化粧・美容の技術習得だけでなく、モノづくりを通じて化粧品そのものを深く理解するための授業が展開されています。

さらには、抗がん剤治療を受ける方への外観支援、高齢者のQOL（生活の質）向上を目的とした化粧・美容技術の活用など医療や福祉への応用を目指した教育、研究活動に取り組んでいます。



高田定樹 教授

大手化粧品会社を経て、2013年4月から本学教授（化粧科学研究室）。博士（学術）。日本における化粧品科学・化粧品開発の分野で各学会賞を受賞、多数の特許出願実績をもつ。専門は化粧品科学・化粧品開発、化粧の生理・心理効果、化粧のマーケティング、ソーシャルビューティケアなど。

【本リリースに関するお問合せ先】

学校法人樟蔭学園 百周年記念事業本部（担当：宇高）
〒577-8550 東大阪市菱屋西 4-2-26 / TEL:06-6723-8152（直通）
FAX:06-6723-8263（直通） / E-mail: 100th@osaka-shoin.ac.jp